

## 第8章 高専に対する卒業生の要望

### 8. 1 はじめに

本章では、専攻科修了生アンケートと本科卒業生アンケートにおける質問項目【6. 徳山高専の将来像について】と【7. 夢や悩み】に対する回答をまとめる。質問の内容は以下の通りである。

#### 質問内容

##### 【6. 徳山高専の将来像について】

- 【6-1】 徳山高専の学科構成についてどのようにお考えですか
- 【6-2】 具体的に学科をどのように変更したら良いとお考えですか
- 【6-3】 徳山高専の学習・教育目標についてどのようにお考えですか
- 【6-4】 具体で期に学習・教育目標をどのように変更した方が良いとお考えですか
- 【6-5】 徳山高専のカリキュラムについてどのようにお考えですか
- 【6-6】 具体的にカリキュラムについてどのように変更したほうが良いとお考えですか
- 【6-7】 徳山高専の教育体制・環境についてどのようにお考えですか
- 【6-8】 具体的に教育体制・環境をどのように変更したほうが良いとお考えですか

##### 【7. 夢や悩み】

- 【7-1】 現在の、あなたの夢や悩みについてお聞かせください。

以下では、まず質問項目【6. 徳山高専の将来像について】の専攻科修了生と本科卒業生の意見をまとめる。特に【6-2、6-4、6-6、6-8】については前回アンケートが実施された平成24年度の報告と可能な限りで比較し分析を行う。この比較については、質問の形式が前回実施されたときと異なっていること、および回答数の違いから厳密な比較は困難である。そのため、今回のアンケートにより示された意見と前回アンケートでの意見の相関についてのみ解析する。

### 8. 2 【6. 徳山高専の将来像について】に関するまとめと解析

ここでは質問項目【6. 徳山高専の将来像について】の専攻科修了生と本科卒業生の意見についてまとめ、前回アンケートの結果と比較する。なお、上記の質問内容からわかるようにここでの質問は以下の4つのカテゴリーに分解可能である

- 1. 学科構成について 【6-1】、【6-2】
- 2. 学習・教育目標について 【6-3】、【6-4】
- 3. カリキュラムについて 【6-5】、【6-6】
- 4. 教育体制・環境について 【6-7】、【6-8】

ここではそれぞれのカテゴリーに分けてまとめおよび解析を行う。

### 8. 2. 1 学科構成について（【6-1】、【6-2】）

質問【6-1】より、以下の結果が得られた（ここでは全体の結果のみを表記し、学科ごとの結果は表記しない）。

学科構成について	適切である	変更すべきである
専攻科修了生	100.00% (33)	0.00% (0)
本科卒業生	94.63% (229)	5.37% (13)

※括弧内は票数

学科構成について、今回アンケートを行った限りでは専攻科修了生は全員が「適切である」との評価をしている。本科卒業生に対するアンケート結果では専攻科修了生の結果と同様に「適切である」の評価が多数を占めているが、全体の約5%が「変更すべき」と評価している。

「変更すべき」と評価したかたの意見は質問【6-2】で得られており、

- ・ 複合学科の意味がなくなっている
- ・ マネジメントなどができる人材を育成する必要がある。

等が多数であった。また複合学科に関して「土木と建築は全く違う学問であるため早急に分けるべき」との意見も挙げられている。

### 8. 2. 2 教育・学習目標について（【6-3】、【6-4】）

質問【6-3】より、以下の結果が得られた（ここでは全体の結果のみを表記し、学科ごとの結果は表記しない）。

学科構成について	適切である	変更すべきである
専攻科修了生	93.94% (31)	6.06% (2)
本科卒業生	95.87% (232)	4.13% (10)

※括弧内は票数

教育・学習目標について、専攻科修了生と本科卒業生ともに90%以上が「適切である」と評価をしている。その一方で課題として挙げられている部分もあり、

- ・ 社会に出て実際に役に立つ学習・目標にしたほうが良い
- ・ 英語を中心に文系科目が弱い(英語の学習を増やす)

という意見が多く得られた。これはともに平成24年度のアンケートでも多く見られるものである。

### 8. 2. 3 カリキュラムについて（【6-5】、【6-6】）

質問【6-5】より、以下の結果が得られた（ここでは全体の結果のみを表記し、学科ごとの結果は表記しない）。

学科構成について	適切である	変更すべきである
専攻科修了生	96.97% (32)	3.03% (1)
本科卒業生	89.26% (216)	10.74% (26)

※括弧内は票数

カリキュラムについて、は専攻科修了生の評価は「適切である」が他の項目と同じく高い値となっているが、本科卒業生の評価は今回の4つのカテゴリの中では唯一90%を割っており「変更すべき」とする意見も他の項目より多く得られた。最も数が多かったのは「社会で役に立つ技術に関する学習」について書かれたものであり、時代にあった教育（カリキュラム）にしてほしいとの意見もあった。この社会・実践教育に関する意見の割合は平成24年度のアンケート結果よりも増加している。その他には前節の6.2教育・学習目標についてでも挙げられている英語教育と文系科目についての意見も多く、これもまた平成24年度のアンケートでも同様の傾向があった。

#### 8. 2. 4 教育体制・環境について（【6-7】、【6-8】）

質問【6-7】より、以下の結果が得られた（ここでは全体の結果のみを表記し、学科ごとの結果は表記しない）。

学科構成について	適切である	変更すべきである
専攻科修了生	96.97% (32)	3.03% (1)
本科卒業生	95.45% (231)	4.55% (11)

※括弧内は票数

教育体制・環境について、ともに「適切である」との回答が95%以上であった。変更すべき点として挙げられているのは、

- ・ 英語力を強化できる環境づくり
- ・ 閉鎖的な環境の改善、外部環境とのつながりを増やす（人間性の教育）
- ・ 実践的な教育体制にして大学との差別化を図るべき

等であった。これらは平成24年度アンケートで得られている意見でもあり、その傾向が続いていると考えることができる。また、「教員が同じ方向を向いていない」という平成24年度のアンケートにはなかった意見も挙げられている。

#### 8. 3 【7. 夢や悩み】について

ここではアンケート結果から得られた専攻科修了生および本科卒業生の現在の夢と悩みについてまとめる。専攻科修了生と本科卒業生の夢と悩みをそれぞれ分け、平成24年度に実施されたアンケートと比較する。

### 8. 3. 1 専攻科修了生

『夢』については「家族の幸せ」と「社会における責任と役割」に言及しているものの割合が大きかった。これはともに平成 24 年度のアンケートでも見られる回答であり、特に「社会における責任と役割」について意識が高いことがわかる。

『悩み』に関しては新たに将来像が明確ではないことや AI について言及しているものが見られた。平成 24 年度アンケートとの共通点として依然して「時間が足りない、取れない」などの意見があった。

### 8. 3. 2 本科卒業生

今後の『夢』に関しては「技術を生かして地域に貢献する」と「会社・業種を発展させること」、「次の世代の育成」について書かれているものが多かった。徳山高専で磨いた専門性を使って社会で活躍することや高専を卒業した人間が社会に評価され高い地位を得ていることも見受けられる。この他にも自分の人生や仕事に対して前向きな意見が多く見られた。

『悩み』としては「これからの社会」を題材としてものが多く、今後の「夢」で挙げられたことに関連するような悩みが多くあった。加えて、学生時代や若いと時に語学（英語・中国語など）を疎かにしてしまった事によって、「コミュニケーションがうまく取れない」「人生の広がりや妨げている」などの悩みが挙げられている。また、現在パワー・ハラスメントなどが強く問題視されている中で思うように若い世代を教育できないといった変容していく社会の中での悩みや葛藤も見られた。

## 8. 4 本章のまとめ

本章では専攻科修了生、本科卒業生の考える【6. 徳山高専の将来像について】とそれぞれが現在抱えている【7. 夢や悩み】について意見をまとめ、前回アンケートの結果と比較しその傾向を示した。全体として現状を評価する意見が多く得られたが、その一方で改善を要するとする意見もあった。また、多く場所で「昔やらなかったことを今、後悔している」という趣旨の意見もあり、同時に現在の在校生への激励の言葉や期待の言葉も多くあった。

(担当：中村)